

## 令和6年度森林吸収源インベントリ情報整備事業北海道ブロック現地講習会報告

開催日：2024年5月17日（金）

時間：9時00分～16時00分

場所：ID010960（千歳）

受講者：（株）セ・プラン、構研エンジニアリング、リック、環境テクニカルサービス（7名）

講師名：橋本徹（責任者）、梅村光俊、今村直広（森林総研北海道支所）、今矢明宏（森林総研立地環境研究領域）

オブザーバー：菅原悠希（林野庁）

場所の概要：上層木は広葉樹林の一部をアカエゾマツ林分が占めており、下層植生に笹はほとんど存在せず、オンダが見られる林分であった。また、平坦な地形であり、支笏湖の噴火に伴う火山堆積物が土壌の主要構成物となっており、土壌の採取は比較的容易であったが、細かい礫が多く、石礫率の判定が難しい場所であった。

講習会概要：受講者と合流後、受講者の先導で調査位置の中心杭まで到達し、その後、2班に別れ、南北と東西のライン引き、根株と立枯木の調査を実施し、適宜、修正点、改善点の指摘をした。受講者が1名欠席して7名となったため、土壌断面調査は北、南、西の3地点で2名あるいは3名で実施し、作業途中で適宜講師による指摘をおこなった。次に経験の浅い受講者を中心に東地点の土壌断面調査を実施した。最後にサンプルの確認と化学分析用土壌試料の混合をおこなった。講習会の終わりには、林野庁の菅原氏より講評を頂いた。

指摘事項：

- ・ライン引きの際、ラインが空中に浮かず、地上に沿うこと（写真2）。
- ・粗掘りの際、ブルーシートを置く位置は粗掘り穴の左右どちらかにすること（写真3）。
- ・断面整形で堆積有機物層を切る際には、軽く手で押さえながら切るようにして、堆積有機物が脱落しないようにすること。また、土壌面も剪定鋏で細根の多い層を整形し、細根が少なくなってからコテで整形すること（写真4）。
- ・断面下部まで鉛直に整形すること。
- ・アカエゾマツの細かい針葉のリターもできるだけ採取する。また、その際は手袋でそっと払いながらリターを採取すること（写真5）。
- ・円筒採取は、最初は剪定鋏でふちに沿って丁寧に切り進むこと。円筒を押し込まないこと。
- ・化学分析用土壌試料採取のためのブロックのサイズは、各深度できちんと測ること（2層目の採取時に幅を1層目の半分として目測で設定しようとしていたため）。
- ・化学分析用土壌試料から根や礫を捨てる際には、土を丁寧に取り除く必要があること。取り除けないなら根や礫を無理に捨てないこと。

全体講評：受講者の調査方法に大きな問題は見られず、今回の指摘を活かしより良い調査ができると確信している。



写真1 中心杭の確認



写真2 ライン設定



写真3 粗掘り



写真4 断面整形



写真5 リター採取